

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500204		
法人名	社会福祉法人奥州市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームじゅあんの園(あじさい棟)		
所在地	岩手県奥州市胆沢区南都田字石行30-1		
自己評価作成日	平成28年11月7日	評価結果市町村受理日	平成29年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&Ji_gvosvoQd=0391500204-00&Pr_efQd=03&Ver_si_onQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るくゆったりとした施設の中で、利用者様が自由に表現できる雰囲気、職員と笑顔の日々を送れるような施設を目指している。外出行事や季節行事をととして「今」を感じることを大切に過ごしていただいている。夏祭りや敬老会など大きなイベントも企画し、近隣住民やボランティア団体、ご家族、運営推進委員に参加いただき、一緒に楽しい時間を共有する等繋がりを大事にしている。また、消防訓練でも地域の皆さんに協力を頂いており、事前に車椅子実践研修を行い安全に避難誘導できるよう取り組んでいる。他施設行事(お祭り、演芸会等)や保育園行事等(発表会)積極的に出向き利用者様が楽しく暮らせるよう工夫を凝らしている。利用者様の希望を反映し、外食で回転ずしを喜ばれたり、弁当持参のドライブを楽しむなど、自然と接する機会を積極的に設けている。訪問診療や訪問歯科を受入れる等、医療との連携を図り、利用者様、ご家族も安心してこの施設に入所して良かったと思えるよう創意工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

奥州市の国道397号線を西方に進んで県道176号線と交差した十字路を南へ1.5km、農村地帯の中心地に市役所胆沢区総合支所、近くには国保まごころ病院、体育施設、向かいに文化創造センター、並んで消防署胆沢分署があり、その一角に市社会福祉協議会胆沢支所と隣接して本協議会経営主体の2ユニットの当事業所がある。これらの各事業所・施設と有機的に関連することで、事業所の運営により良い効果を上げている。優れている点を挙げると、①近くの国保まごころ病院との連携により一般診療、訪問診療、訪問歯科診療、訪問看護が行われ、安心して医療行為を受けることができる。②地域住民との関係継続を大切にし、保育園児を含めた交流が行われ、それが避難訓練の際の支援協力にもつながっている。③利用者が事業所内に閉じこもらない生活ができるよう日常的に事業所周辺の散歩をはじめ、同法人のデイサービス利用者との交流など、外気に触れ、開放感を味わえるように配慮がなされている。④職員の優しい笑顔により、利用者が安心して生活できるよう気配りされている、などが挙げられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議において、自分達の目指す方向性について検討し、理念について意見をだした。現在意見を集約し独自の理念を検討中である。奥州市社協介護サービス事業の基本理念に沿って、日々の業務に取り組んでいる。	市社会福祉協議会としての介護サービス事業の基本理念として「優しくあれ」「暖かくあれ」「共に笑顔であれ」を掲げ、その実践に向け日々取り組んでいる。現在「じゅあんの園」独自の理念を構想中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや敬老会等の行事の際、地域のボランティア団体に参加していただき、一緒に行事を楽しむことができている。また、避難訓練も近隣の方に参加いただき地域の一員として顔なじみの関係ができている。	隣接するデイサービスと一緒にいる敬老会や夏祭りには、地域のボランティアの方々の参加をいただくほか、避難訓練時には近隣の方々の応援を頂いている。また、向かいの文化創造センターや図書館に出かけ、住民と交流する場面もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新規申し込みがあった家族には、認知症家族への接し方やコミュニケーションのポイントアドバイスを行うようにしている。また、介護保険制度について不明な点も説明している。近隣の方も自由に来ていただき、相談できる環境となっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	独自の特色を活かしたサービスの展開についてアドバイスをいただいたり、高評価をいただいた家族への近況報告手紙は継続して行っている。	事業所運営について様々な提案などがなされている。例えば、非常口の段差の解消の方法、地域との協力関係の強化策などが出され、それを丁寧に職員会議に諮り、実現できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度上不明点については随時、長寿社会課に確認をとりながら業務を行っている。事故発生時は報告書を提出し安全なサービス提供にむけて、助言をもらっている。	運営推進会議の委員として、市の健康福祉課の職員がなっていて、制度上のことや時々情報提供を頂いている。ヒヤリハットなどの危機管理等についても話題にし、対策を考えるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒の危険防止のため、家族に承諾を得てセンサーマットを使用している(1名)。使用することにより、立ち上がりキャッチでき、事故防止につながる事ができている。個々の身体機能に合わせた介助を行い、身体拘束を行わないケアマニュアルを熟知し日々の介護業務を行っている。	市の長寿社会課等が行うサービス事業所の職員を対象とした身体拘束に関する研修会には、代表者が出席し、その内容を全職員に報告し、確認し合っている。言葉による拘束を含め、優しいケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	包括支援センターより講師を招き事業所全体で虐待について研修会を開催した。奥州市の施設で虐待があったことを受け、身近な事として捉え様々な要因があって虐待に結びつく事を学ぶ事が出来た。施設内に、家族やボランティア、近隣の方の往来がある事により、職場内が解放され、防止策につなげる事もできている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はないが、職場内にパンフットを設置し、随時閲覧し勉強できる環境を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもって、利用者、家族に説明を行い納得いただいている。解約時も解約書で説明し承諾を得て署名いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画書の説明を行う際や来所時に生活の様子についてお伝えしている。その際、要望や意見を聞く時間を設けるようにしている。第三者委員を設置し、相談できる窓口を設けている。	家族の来訪時や、生活の様子を伝える電話等で希望や要望を聞くようにし、職員やケアマネジャーの意見を踏まえて、できることから叶えるようにしている。年2回の社協主催の福祉サービス適正化会議に代表者が出席し、情報を共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議において、職員の意見を聞く機会を設けているが、業務や利用者中心になり、職員の処遇について話合う機会が少ない状況である。	毎月開催される隣接のデイサービス事業所を含めた職員会議や評価会議で、自由に発言できる雰囲気があり、様々な意見が出され、全員で協議して可能なものから実現できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員への登用制度を確立した。また、年次有給休暇を取得しやすい環境を作る事により、個々がプライベートの充実を図りリフレッシュし仕事に取り組む事が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加や資格取得へ向けての講習会への参加も積極的に行いキャリアアップできる環境整備ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会へ加入し、研修会や集いの場へ積極的に参加している。また、交換研修も行い、他事業所と情報交換も行っている。今年度は他GHに見学に行く機会を設け、サービスの質の向上へつなげるきっかけ作りができた。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室やホールで落ち着いた雰囲気、不安や心配ごとがないか、傾聴する時間を作っている。また、担当制にすることにより、職員との信頼関係をよりスムーズに築けるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不明な点は、すぐに確認ができるように連絡先を明示している。全職員が対応できるように、フェイスシート等で情報の共有を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1ヶ月は本人のニーズ把握のためのプランに基づきサービス提供を行い、細やかな観察を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事はそれぞれができる事を分担して行っている。自らが得意な事を活かし、職員も教えていただく姿勢で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の要望を聞きながら、ホームと家族間を自由に行ききできる環境を作っており、本人も安心してホームで過ごす事が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会の受け入れも行っている。また、近所の方が利用されている施設にでむき会話ができるような機会を設けている。	兄弟や親戚の方、友人などの訪問面会時には、落ち着いて思い出話など出来るよう、場所の工夫などに配慮している。馴染みの美容院などに出かけることを希望した時は支援し、交流できるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配慮に努め、容易に話ができるような環境作りをしている。ソファを設置することにより、利用者が自然に会話できるようになっている。動作が緩慢な利用者の食器を片付けたり、お互いの状態を理解し支えあう事が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族の心配事や適切なサービスが受けられるようにアドバイスを行っている。必要に応じて気軽に連絡がとれる事を退所時に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、入浴、食事、余暇活動等に対する希望や要望がないか確認をしている。	思いや意向を述べる方が少なくなってきた。普段の会話や仕草から思いを察知して、実現できるように努めている。入浴や食事の時間、趣味活動など本人の希望に沿えるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を職員が把握することにより、趣味や馴染みのものと生活ができるように努めている。毎月の評価会議において利用者の状態の把握に努め情報共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過や業務日誌、申し送りノートに利用者の心身状況や様子を記入し情報共有を図る事により現状を把握する事ができている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の評価会議において、担当職員のモニタリングを含め各職員からケアの見直しやあり方について意見交換を行っている。本人や家族から出された要望や意見についてもプランに反映していくことでニーズの充足に努めている。	月1回開催される評価会議で、まず、担当者から現在の状況の報告、これからのケアのあり方について述べられ、各職員からの補足があり様々な意見を集約し、家族からの要望を加味しながらケアマネジャーがそれをまとめ、ケアプランとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫は、支援経過の特記事項の活用、また、業務日誌で申し送る事により情報共有を図る事が出来ている。評価会議等で利用者の現状を話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節行事や近隣施設で開催される様々な行事や発表会等にも、参加し、現在しか体験できない事を見聞きすることを大切に活動している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館に紙芝居や本の貸し出しを利用し余暇時間で読書を楽しんでいる。月1回の傾聴ボランティアの受入れにより、会話を楽しんでいた。近隣農家へも出向き一緒に梅の収穫をされ季節を感じる事が出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の訪問診療や訪問歯科診療を受ける利用者が増え、家族からも安心の声が聞かれている。かかりつけ医の受信は家族対応となっているが、車いす利用者に対しては、職員が病院まで送迎している。必要に応じて日常の様子やバイタルチェック表をお渡ししている。	近くの「国保まごころ病院」をかかりつけ医にしている方が多く、通常の診療のほか訪問診療、訪問歯科診療、訪問看護を受けている方が多数である。受診時、必要により事業所内での生活の様子などを口頭または文書で伝えるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職の気づきを看護に報告することにより、専門的分野からアドバイスをいただいて適切な介護、受信に繋げる事ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心した治療のため、医師や看護師に利用者の体調や薬剤の情報提供を行っている。退院時は看護師やケースワーカーからも状態や注意点を確認し、退院後快適かつ安全に生活ができるように環境整備に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在取り組みは行っていないが、終末期ケアの必要性はあると実感している。今後看護師を中心に看取りケアの勉強を行い、重度化した利用者が安心して最後を迎える事ができるよう、職員のスキルアップも含め実行していきたい。	看取りの経験を持っていない。今後のことを考慮し、看護師や関係職員、運営推進会議委員でもあるまごころ病院の事務長等を交え、職員研修を重ねて、対応について検討していくこととしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルで周知はしているが、実践研修を行う事が出来ていない状況である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間火災、昼火災の設定で定期的に避難訓練を行い、避難経路、避難場所の確認を行っている。火災場所により避難経路が何パターンかあり今後、東経路の段差の解消が必要である。訓練には地域の方の参加もいただき一緒に避難場所の確認をおこなう事ができた。	年間計画に基づき、市消防署胆沢分署の署員の指導のもと、年2回実施し、そのうち1回は、通報訓練を含めた避難訓練を地域住民の協力を得ながら実施している。昨年は、夜間の8時頃実施した。車イスを操作しての訓練等を行い、地域住民から好評であった。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに関しては、温かい気持ちで敬意をもって接するように心がけている。また、家庭的な雰囲気のあるユーモアあふれる会話も日常的に大切にすすめている。研修会を開催し言葉かけの勉強も行うようにしている。	利用者一人ひとりの人格への尊厳を第一として、言葉遣いや手助けなど細かいことに配慮しながら、日々のケアにあたっている。特にプライバシーにかかわる入浴やトイレ誘導などについては、気配りされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の好みの活動を重視して生活できるような雰囲気作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午後からの入浴時や買い物業務にある場合は、職員数が足りないために、散歩に行きたい利用者があっても対応できない時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が手作りした、着慣れた衣類はほころびやボタン替えをして長く愛用できるように支援している。利用者同士お互いの衣類を褒め合いおしゃれに対しての意識を高めあっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中で好きな食べ物や食べたいものを聞きながらメニューに取り入れている。施設の畑で野菜を育て一緒に収穫し獲れた野菜を調理し季節野菜を味わう事もある。	自家菜園で収穫した野菜や、近所の方から差し入れされた食材を組み合わせながら、バランスの取れた食事ができるよう工夫している。バイキング形式や、時には、カップラーメンなども好まれる。調理の下ごしらえなども、できる方には手伝ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みに配慮し、その人に合わせて個別にメニュー変更をすることもある。体調や季節に合わせた水分摂取を心掛けている。健康チェック表を記載し全職員が利用者の食事や水分量を把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後介助しブラッシング、うがいを行っている。できる方は声かけにより歯磨きを促している。夜間は義歯を預かり洗浄し、清潔が保たれている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握し、トイレ誘導している。車椅子利用者も残存機能を活かし、自立した排泄が保てるように介助している。現在はおむつ利用者はいない。	排泄チェック表により、パターンを把握し、適時適切なトイレ誘導により、オムツ等の使用量を減らすことができたなどの事例がある。適度な運動などにより、下剤の使用を減らすことができた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通が良くなるように繊維野菜や果物をたっぷりと摂取できるようにメニューを考案している。また、身体を適度に動かすこと(体操の取り組み)も定期的に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節で多少の違いはあるが、週に2回は入浴することができる。個浴でゆっくりと入っていただき毎回、気持ちいいねとの声が聞かれている。時間は午後入浴と固定されている。今のところ午前入浴の要望はない。	朝のバイタルチェック等により、入浴の可否を判断している。週2~3回の入浴で、入浴を楽しむことができるよう工夫している。ゆず湯、しょうぶ湯なども組み合わせている。普段発言しないような昔話や思い出話などを、入浴時にはしてくれる機会にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースにソファを設置し、気兼ねなく横になれる環境ができている。また、居室で自由に休息が取れるよう声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の処方箋を綴りにして全職員が目的や副作用を確認できる環境を整備している。個々の内服を把握し服用しやすい状況で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌番組や動物の番組は録画し要望に合わせていつでも見れるようになっている。塗り絵や箱作など思い思いに取り組む姿もある。家事も食事の準備や洗濯たたみ、モップかけ、テーブル拭きなど得意分野を分担し行っている。いきいきした生活に繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力も得て、家族と一緒に外出される事は本人の要望で自由に行うことができるようになっている。玄関ポーチで外を眺めながらおやつを食べたり、弁当持参で外出し芝生に座りながら、昼食をとる事もある。むかひの図書館や近くの施設に散歩したり、学校建設の現場を眺めに行き完成を心待ちにしている姿も見られた。	天候の良い穏やかな日には、できるだけ外出を促し、外気に触れるようにし、解放感を味わえるようにしている。隣接するデイサービスに出かけたり、向かいの図書館などの文化施設に出かけ交流するなど、刺激のある生活が出来るように配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の現金所持は現在には行っていない、外出して必要なものを自分で選び購入する喜びも普通感じていただきたいことから、そのような機会を設けることを今後検討していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の都合も考慮しながら、本人から要望があれば、施設内の電話を利用し家族と話ができるような環境は整っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにおいては、春夏秋冬を感じる事ができるような季節感のある装飾を心掛けている。利用者が自ら書いた絵を貼るにより、話題の提供にもなっている。日めくりカレンダーで毎日の確認を行っている。	リビングは温風ヒーター、居室はパネルヒーターで快適な室温管理を行っている。冬季乾燥期には、加湿器を使い、インフルエンザ感染防止に配慮している。リビングには季節の花を飾り、廊下には行事の写真を貼り、また、自分達で製作したはり絵などを飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにクッションやぬいぐるみ、ひざ掛けを置く事により、リラックスした体制でゆったりと話ができるように環境作りをしている。新聞コーナーで静かに外を眺めたり新聞を見て過ごす事ができるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人馴染みのものを飾ったり、本人愛用の毛布を使用したり、家庭と変わらない雰囲気生活できるようにしている。ベッドか布団も選択し快適に過ごせるようになっている。	各居室への私物は、持ち込み自由としている。備え付けの木製の家具は、暖かさを感じる。壁には、家族写真や趣味の絵などを飾り、テレビ、ラジオ、位牌などを持ち込み、居心地の良い生活が出来ようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しく入所された方に居室が分かりやすいように、居室入口に名前を掲示している。確認しながら自分の居室に戻られる方が多数いる。自分の名前を見つけると笑顔も見られ安心して居室に入られる。		